



すくすく  
みどり

No.34

# 夏のガーデニング トラブル解決Book!



公益財団法人札幌市公園緑化協会

## もくじ

### 2 はじめに

### 3 夏にこんなガーデニングトラブルはありませんか？

### 5 夏を乗り切る！トラブル別解決法 トラブル1.土がすぐ乾く

### 9 トラブル2.何度植えてもすぐに枯れてしまう

### 14 トラブル3.植物が大きくなるらない

### 18 トラブル4.葉がカサカサになる

### 19 トラブル5.病害虫がつきやすい

### 21 夏から秋に向けての栽培ポイント

### 23 植物を強くする冬への準備

### 27 園芸に関するご相談・札幌市都市緑化基金



## はじめに

近年、地球温暖化の影響からか、北海道でも真夏日や猛暑日を記録する年が増えてきました。これまで本州に比べて冷涼で過ごしやすくとされてきた北海道の夏も、いまや強い日差しや高温、急激な乾燥など、これまでとは異なる環境変化に直面しています。

「花がすぐに枯れてしまう」「株が思うように育たない」「病害虫が増えた気がする」といった悩みは、暑さや乾燥によるストレスが原因であることも少なくありません。これまでと同じ管理方法では対応しきれない場面も増え、戸惑いを感じている方も多いのではないのでしょうか。

本書では、北海道の庭で起こりやすい夏のガーデニングトラブルを原因別に整理し、その対策を分かりやすく解説します。土づくりの見直しや水やりの工夫、環境に合った植物選びなど、すぐに実践できる方法を紹介するとともに、植物を暑さに強く育てるためのシーズン終盤の管理についても取り上げました。

また、近年注目されている「ローメンテナンスな庭づくり」の視点から、手入れの負担を軽減しながら植物を健やかに保つ方法も提案しています。

変わりゆく北海道の夏に対応しながら、みなさまが庭で過ごす時間がこれからも豊かなものでありますように。本書がそのヒントとなれば幸いです。

# 夏にこんなガーデニング

近年、北海道でも夏の猛暑に見舞われることが増え、暑さが原因と思われるガーデニングトラブルに悩まされることも少なくありません。花壇の花がうまく育たない、鉢植えやプランターの植物がすぐしおれる…など、トラブル別に解決法を確認していきましょう。

## トラブル1 土がすぐ乾く

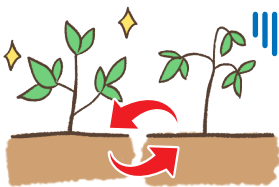
p5へ



毎日水を与えていても、あっという間に土が乾いてしまうことはありませんか。水の与え方や土づくりを見直しましょう。

## トラブル2 何度植えてもすぐに枯れてしまう

p9へ



日当たりは良く、水やりもしているのになぜか枯れてしまい、植えなおしを繰り返していることはありませんか。植える場所と植物の相性や、植え付け後の管理を見直しましょう。

## トラブル3 植物が大きくならない

p14へ



植えつけてから、なかなか大きくならないことはありませんか。すぐに肥料不足と考えがちですが、問題は根の状態にあるかもしれません。根がうまく張らなかった原因を探ってみましょう。

# トラブルありませんか？

## トラブル4 葉がかさかさになる

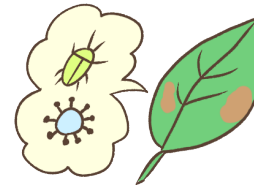
p18へ



日当たりは良いのに、うまく育たない…それどころか葉がかさかさになってしまったことはありませんか。日照の強さや風の流れを見直しましょう。

## トラブル5 病害虫がつきやすい

p19へ



病害虫がつきやすくなったことはありませんか。植物の免疫力が落ちているかもしれません。弱らせる原因を作っていないか確認してみましょう。

## 猛暑を乗り切るガーデニングアイデア

ロー  
メンテナンス



暑いのは植物も人も同じです。特に猛暑の中では短い時間で手間を少なく植物を維持したいものです。

要チェック!

ローメンテナンスのポイントにはこのマークをつけています。

# 夏を乗り切る！ トラブル別解決法

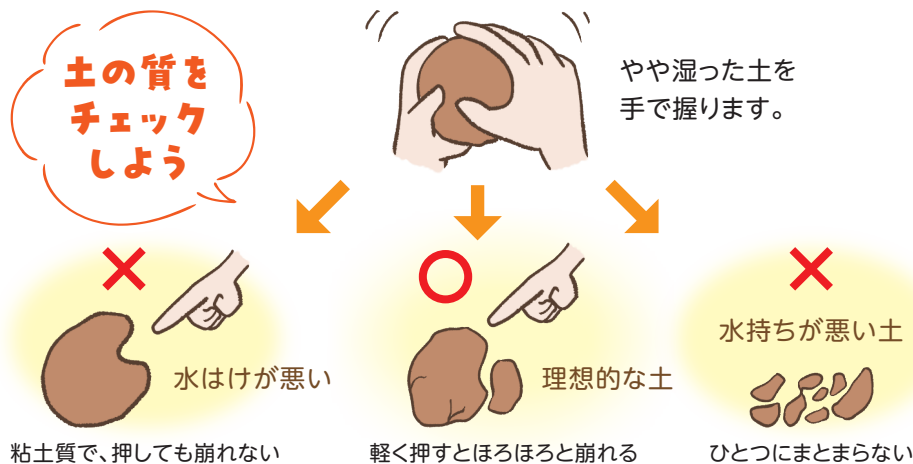
## トラブル1 土がすぐ乾く

近年は高温なうえに雨が少ない年もあり、毎日の水やりにとっても苦労している人も多いのではないのでしょうか。いくら水を与えてもすぐに乾いてしまうのにはさまざまな要因が隠れているかもしれません。暑いからとあきらめる前に、土や水やりの方法などを見直しましょう。

### 原因1 土に水を保つ力がない

#### 乾きやすい土は土壌改良が必要

乾きやすさを感じる時は、植物が植わっている土の質を一度確認しましょう。水持ちが悪く、乾きやすい土は土壌改良を行うことで、水やりが楽になることがあります。



耕運が不十分な花壇では、表層部が良い土でも、その下が砂利になっていることがあります。花壇マスやレイズドベッドなどで土の層が浅い場合も水が抜けやすいため、土が乾きやすくなる傾向があります。

## 対策 堆肥を入れる

良い土には小さな土の粒が集まった固まり(団粒構造)があり、この中に水や養分のほか、空気をためることができます。堆肥は土どうしを結び付けて固まりを作る手助けをし、水持ちをよくします。また、逆に水はけの悪い土に加えると、土に空気が入りやすくなり、水はけが改善されます。

### おすすめの堆肥



#### 腐葉土(落ち葉堆肥)

- 広葉樹の葉が分解してできた堆肥
- 花壇・鉢植え向き

#### バーク堆肥

- 針葉樹の皮(バーク)を分解させた堆肥
- 花壇向き

#### 牛ふん堆肥

- 牛ふんにもみ殻やワラを加えて発酵させた堆肥
- 肥料分が多く、畑・果樹向き

### POINT

土全体の2~3割程度か、2kg/m<sup>2</sup>を目安に入れます。花壇であれば、深さ30cmほどまでしっかりすき込みましょう。宿根草や樹木などを植えていて深く掘れない植物の場合には、株元から少し離れた位置に根を傷つけないようにすき込みます。



## ピートモスや赤玉土の活用

水持ちを改善したい場合は、堆肥での土壌改良にあわせて、基材の土にピートモスや赤玉土を足しましょう。ピートモスは泥炭からできた土壌改良資材で、全体の1~2割を目安に均一に混ぜ込みます。赤玉土は基本用土のひとつです。市販の培養土がすぐ乾いてしまう場合は、培養土:赤玉土=1:1で混合すると良いでしょう。どちらも保水性、保肥性、通気性に優れていることから水の管理がしやすくなります。

### ピートモスの入れすぎには注意!

ピートモスは強く乾燥させると逆に締まって水がしみ込みにくくなります。特に鉢植えやプランターで利用する場合は入れすぎに注意しましょう。また、酸性が強いので、植物によっては相性が悪い場合があります。

## 原因2 一回の水やり量が少ない

### ちょちょこ水を与えるのはNG

朝に水やりをしても午後にはすっかり乾いてしまう場合、元々与えている水の量が足りず土全体に水がしみわたっていないことが考えられます。水やりしたあとに表土を軽く掘ってみると数センチしか水が入っていないことがよくあります。

こんな水やりしていない？



根は表面や株元ではなく、さらに深く横に広がっていて、水を吸う組織は根の先端にあります。この部分にいかにも水を届けるかが、水やりを上達させるコツです。

### 対策 根に届く深さまで水をしみこませる

花壇や畑では土の深さ15~20cm以上、樹木ではさらに深く根に水が届くようたっぷり与水えましょう。

土を手で軽く掘ってみて、土が茶色く湿り気があればまだ水やりは不要です。白くカサカサしている場合は、5Lジョーロで最低でも2~3杯分/m<sup>2</sup>しっかりと水を与えます。

### 対策 プランターは底から出るまでたっぷり

鉢植えやプランターは鉢底から水が出るまでたっぷり与えるのが基本です。ただし、一度だけの水やりではさっと流れ出てしまい、土に十分しみ込んでいない場合があります。少し間をあけてもう一、二度と水やりをすると、水持ちがアップします。

## 原因3 土の表面が露出している

### 根の乾燥対策が必要

土の表面に直射日光が当たりすぎていませんか。土の温度が上がると、水分がどんどん蒸発してしまいます。特に株が大きくなる前は土の表面が露出しやすく、乾燥も早くなりがちです。

### 対策 マルチングの利用

土の表面を物理的に覆うことをマルチングと言い、土の温度上昇や乾燥を防ぎ、根を保護する効果があります。マルチング資材にはさまざまな種類があります。

#### ビニールマルチ

畑などで多く利用  
黒や透明など用途によって  
選択肢はさまざま

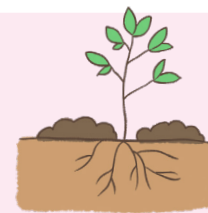
#### 天然資材マルチ

土に還るので環境にやさしい・花壇や鉢植え向き

- バークチップ・ウッドチップ
- 敷き藁・枯草・ココヤシファイバー
- 腐葉土

### 腐葉土マルチがおすすめ

腐葉土は見た目が土と変わらず、土に還るため後始末が不要です。安価で手に入れやすいのもメリットです。地植えでは5cmほどの厚さで株周りをマルチしていきましょう。株元を埋めると蒸れの原因になるため少し間をあけて敷くようにします。鉢植えならバークチップやココヤシファイバーを使うと見た目のおしゃれさもアップします。



### ローメンテナンス



## 下草になるような宿根草の利用

花壇では背丈の低いグラス類やグランドカバープランツなど下草の代わりになる宿根草を植えるのも乾燥防止になります。鉢植えでは寄せ植えに使うのもおすすめです。

詳細な植物リストは

p10~12参照

#### グラス類

- カレックス
- フウチソウ
- リボングラスなど

#### グランドカバープランツ

- リシマキア
- シバザクラ
- ヒメツルニチニチソウ
- クローバー
- セラスチウム
- アジュガなど

## トラブル2 何度植えてもすぐに枯れてしまう

日当たりが良く、水やりもしているのに何度植えても植物がすぐに枯れてしまうことがあります。その場合は、植えた場所の環境と植物の相性が合っていないか、植えた後の管理に原因があるかもしれません。

### 原因1 植物と日照条件があっていない

#### 日が当たるほど良いわけではない

植物にはその種固有の日照条件があります。植物にとって日が弱いことは成長不良の原因になりますが、日が強すぎることで植物は成長が止まり、限界を超えると枯れ始めます。特に夏は一日にどれくらい日が当たるかで生育が大きく左右されます。

#### 日当たりをチェックしよう!

午前中当たる (東向き)	やや日陰 (北向き)	一日中当たる (南向き)	西日のみ当たる (西向き)
<p>やわらかい午前中の光は、高温になりすぎず夏の猛暑でも多くの植物が耐えられる</p> <p>半日陰</p>	<p>日が弱く植物によっては間延びしやすいが、夏は涼しいメリットがある</p> <p>明るい日陰～日陰</p>	<p>水管理をしっかりしないと、午後には高温やそれに伴う乾燥でしおれやすい</p> <p>日向</p>	<p>午後の高温時から強い日が急に当たるため、葉焼けを起こしやすい</p> <p>強い日向</p>

比較的簡単 → 夏の栽培の難しさ → 難しい

### 対策 適材適所の植物選び

多くの植物は午前から昼ごろまでの柔らかい日が当たる場所だと伸びやかに育ちます。栽培環境に合った植物を選び無理のない植栽計画を立てましょう。

栽培環境を選べる場合は、東～南向きなど西日の当たる午後からは木の陰になる場所を極力選びます。鉢植えは移動が可能なので、高温期は日陰に移動するだけでも暑さをしのぐことができます。

### 対策 環境にあった植物を選ぶ

既存の花壇など環境を変えられない場合は、その場所にあった植物選びが重要になります。



**日当たりが強い** 強い光、乾燥にも比較的耐えやすい

一年草



ジニア



サルビア



ケイトウ

その他

マリーゴールド、イソトマ、アングロニア、ナススタチウム、センニチコウ、ポーチュラカ、ペチュニア、ヒマワリ、ニチニチソウ、ポピー、ヤグルマギク、アリッサムなど

宿根草



ルドベキア



エキノプス



エキナセア

その他

アルストロメリア、アガパンサス、ネプタ、アキレア、コレオプシス、ラムズイヤ、モナルダ、ロシアンセージ、ジャーマンアイリス、宿根フロックス、ゲラニウム、セントランサスなど

ローメンテナンス



### 乾燥や暑さに宿根草をうまく取り入れる

宿根草は年々大きくなるにつれて深く根が張っていくため、猛暑や乾燥にも耐えやすくなります。株が大きくなることで土の露出を防ぐだけでなく、周りの植物の日陰を作る役割もあります。

#### おすすめの宿根草

セラスタチウム、セダム、オオベンケイソウ、ユーフォルビア、グラス類、アルメリア、バーバスカム、ダイアンサス、宿根リナリア、アサギリソウ、シレネ、オーブリエチア、イブキジャコウソウ、イペリス、ロシアンセージ、ポテンティラなど



**半日陰を好む** やわらかい光を好み、乾燥に弱いものもある

一年草



インパチェンス



ベゴニア



トレンシア

その他

ワスレナグサ、コリウス、セリンセ・マヨールなど

宿根草



アストランチア



アスチルベ



カンパニュラ

その他

ギボウシ、リシマキア、ペルシカリア、ジギタリス、トロリウス、ワレモコウ、フジバカマ、キキョウ、オミナエシなど



**明るい日陰～日陰を好む** 強い光が苦手で、やや湿り気のある土を好む

宿根草



ヒューケラ



クリスマスローズ



ラミウム

その他

ヒマラヤユキノシタ、ブルネラ、プルモナリア、リグラリア、ティアレラ、アカンサスなど



**グランドカバープランツ** 這うように増えていき、土の乾燥を防ぐ効果もある

日なた向きの宿根草



シネ・ユニフローラ



クローバー



グレゴマ

その他

セラステウム、シバザクラ、イブキジャコウソウ、ワイヤープランツ、セダム、ツルマサキなど

半日陰～日陰向きの宿根草



アジュガ



イワミツバ



ヒメツルニチニチソウ

その他

リシマキア、ラミウムなど



**リーフプランツ・グラス類** 葉だけでも美しく、下草代わりに重宝する

宿根草



フウチソウ



アサギリソウ

一年草



シロタエギク



コリウス

その他

ヒューケラ、ギボウシ、フェスツカ、カレックス、リボングラス、ユーフォルビア、リグラリア、ヤブランなど

## 原因2 植え付け・植えなおし直後の管理不足

### 高温期の植え付けは遮光と乾燥対策が大切

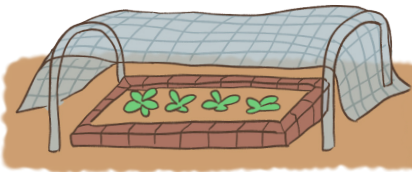
植えっぱなしはNG!!

いつの時期も土に植えてしまえば一安心と思いません。植えつけ直後の苗は根が少ない上に、地上部も茂っていないため土の表面の露出が多く、高温乾燥によってあっという間に干上がります。春とは違い高温期に植えつける際はひと工夫が必要です。

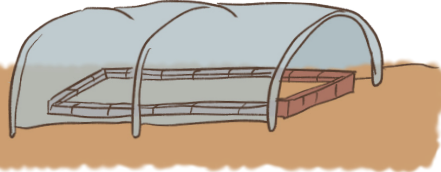
### 対策 株周りの温度を下げ、乾燥を防ぐ

遮光ネットや不織布で株全体を遮光すると、株周りの温度上昇を抑える効果が高いです。葉からの蒸発も少なくなり、発根が促進されます。P8のように株元を腐葉土でマルチングして根を乾燥から守るとなお良いでしょう。

遮光ネットを張る



不織布でトンネルする



#### ▶鉢植えやプランターは半日陰へ

植え付け直後は日陰～半日陰におき、徐々に日に慣らすようにします。

#### ▶いつまで遮光する?

新芽が伸び、植物の成長が見られたら根付いたサインです。根付いたら曇りの日にネットを取り外して徐々に慣らしましょう。ただし、猛暑日など高温で日照りが続くようなら遮光を続けていくと株が傷みづらく長持ちします。

### 対策 根付くまでは水を切らさない

植え付けた後には、すぐにたっぷり水やりを行います。P7を参考に根にしっかり水が届く深さまで土にしみこませることが重要です。植え付け後、1週間程度はしっかりと水やりを行い、あまり乾かさないうち注意しましょう。根付いたら徐々に水やりの間隔をあけることで、根が水を求めて深く張るようになります。毎日水やりを続けると、根は浅いところでしか張らなくなってしまうので注意が必要です。

## トラブル3 植物が大きくならない

植物が大きくならない時は、同じように地下では根が伸びていない場合が多いです。地上部と根の成長は比例するため、さまざまな原因によって根の活動が悪くなっていくことが考えられます。

### 原因1 土の乾燥による肥料の吸収不良

#### 乾燥で肥料は効きづらくなる

規定量の肥料を与えているのに植物が十分に伸びない場合は、土の乾燥が原因かもしれません。肥料の種類によりますが、多くの肥料は水があることで土に肥料成分が溶け出します。乾燥が続くと、肥料が根から吸収されないまま土に残ることになります。



	速効性	遅効性	緩効性
特徴	水に溶けやすい	化学反応・根から出る酸・微生物により、ゆっくり溶け出す	速効性と遅効性の両性質をもつ
用途	追肥に最適	元肥に最適	元肥と追肥どちらもOK
例	水溶性化成肥料、液体肥料など	有機肥料、リン酸肥料など	緩効性化成肥料、有機化成肥料など

一度まくと長期間効くので追肥作業の軽減になります

### 対策 肥料を与えたらすぐにたっぷり水やりする

土の上からパラパラとまいた場合は特にしっかりと水やりをして、土に肥料分を溶け出させましょう。

### 対策 株元からやや離して肥料を与える

水と同様に肥料も根の先端から吸収されます。株元近くだけにまくと、効率的に肥料が届きません。

## 原因2 根の高温障害

### 暑さで根も夏バテする

地上部ばかりを気にして、根の暑さ対策をおろそかにしていませんか。根の周りが高温になると、暑さで煮だった状態になりバテてしまいます。夏バテにより活動が止まるため、水分と肥料の吸収が弱まります。そのため夏はピタっと生育を止める植物も少なくありません。

### 対策 暑い時間帯に水やりをしない

真夏の日中に水やりをすると、与えた水が高温になり根を傷めることがあります。早朝にたっぷり水やりをするのが理想的です。遅くても午前8時までには終わらせましょう。朝が難しい場合は、夏に限り、前日の夜に水やりしておくのも良いでしょう。根のクールダウンの効果も期待できます。

### 対策 マルチングで土の温度を下げる

マルチングは乾燥防止だけではなく、根を高温から保護することもできます。露地では厚さ5cmほど腐葉土を被せるだけで、土の温度を5~10℃ほど下げる効果が期待できます。

### 対策 鉢植えは二重鉢や鉢カバーをする

鉢やプランターの側面に直射日光が当たると、鉢の中の土の温度が高くなりすぎるため、根が弱ります。二重鉢にしたり、鉢カバーをすることで温度上昇を抑える効果があります。黒や緑の鉢は熱を吸収して温度が上がりやすいので、白など色の薄いもの利用するのも効果的です。



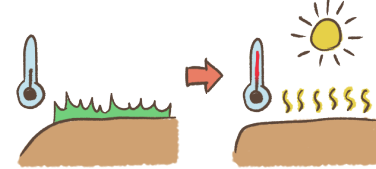
### 対策 猛暑が続くときは肥料を止める

30℃を超えると植物は生育を止め、肥料も吸収しなくなります。その結果、土に肥料が残り、そのまま与え続けると根にダメージが出始めます。気温が落ち着き、植物が再び動きだしてから肥料を再開しましょう。

## 原因3 除草などによる根傷み

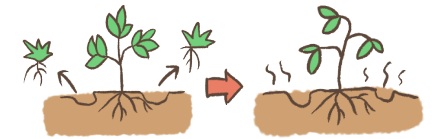
### 除草が逆効果になることもある

雑草に植物の栄養がとられてしまうからと、暑い夏でも頑張って除草を繰り返していませんか？除草はとても大事な作業のひとつではありますが、実はデメリットもあります。



#### 土の温度があがる

除草のたびに土が露出し、土の温度が上がりやすくなります。



#### 根が張らない

除草の際、育てている植物の根が浮いたり切れたりを繰り返すと、根が張らず弱る原因になります。

### 対策 除草は小さいうちにとる

雑草は5~6月だと根も浅く、すると抜くことができるため、育てている植物の根を傷めにくい時期です。この時に集中的に防除すると良いでしょう。除草の際に抜けにくいものは無理に引き抜かず、地際の根と茎の境目にある成長点にはさみを入れてカットすると生育を抑えることができます。

### 対策 除草剤をうまく利用する

スギナやドクダミなど地下茎が張るものは、葉から吸収させるタイプの除草剤を利用します。5~7月の地上部の成長が活発な時ほど吸収が早く、効果があります。

#### ローメンテナンス



### 夏はあえて雑草を残す

雑草を味方にして、土の温度上昇を防ぐ天然のマルチとして活躍させる方法もあります。特にイネ科雑草は土の乾燥を防ぐだけでなく、根が細かく張るため土を耕す効果があります。また、刈り取った雑草を土の上に敷いておくと分解され、土の有機物補給にもなります。植物の種類が多いほど、根の周辺にいる良い微生物たちも多様化し、植物が強く育つようになります。ただし、タネをつけると飛散して雑草が増えるので、花だけは手で摘み取る必要があります。

## 原因4 苗の植え付け時期があていない

### 春の早植えは失敗のもと

「夏が来るまでに早く大きくしたい」と、早い時期に植えるのは大間違い！最近では苗の販売時期が年々早まっており、急いで買って植えた結果、枯らしてしまった例も少なくありません。また、早植えは根が張らず、苗の寿命を縮めます。そのため夏を迎える頃には、大きくなるどころかそのまま枯れてしまうことがあるのです。

## 対策 植え付け適期をチェック

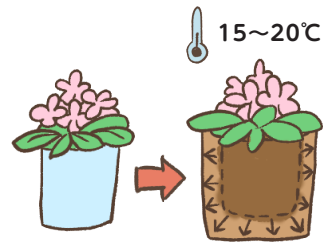
寒さに強い一年草や、球根類を除いて5月下旬から植え付けができるようになります。適期に植えれば、先に植えた苗をあっという間に追い越して育ちます。

	GW中	5月中旬～	5月下旬～	6月以降
土の温度 (平均気温)	10℃前後	13℃前後	15℃前後	20℃以上
植えられる 植物	春植え球根類	寒さに強い パンジー・ビオラ、 プリムラなど ダリアなど球根類	多くの一年草類、 宿根草、野菜苗 など	ほとんどOK

植え付け適期

## 対策 早く入手した場合は仮植えする

植え付け適期まで買ったときのポットのままにしておくと、根詰まりを起こしどんどん苗の老化が進みます。一度老化した苗は大きく育つことができなくなります。ひと周り大きめの鉢に仮植えをして、日当たりの良いところで植え付けて適期まで管理します。ただし、暖かすぎると徒長しやすいので、15～20℃くらいの場所に置きましょう。



ひと周り大きい鉢に仮植え

## トラブル4 葉がかさかさになる

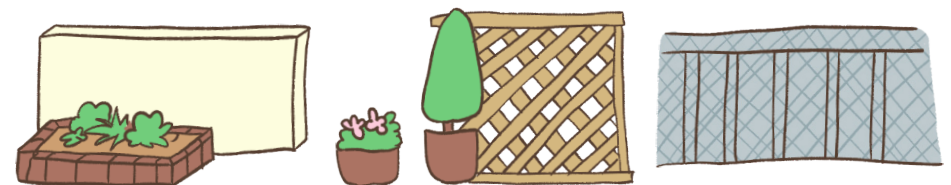
### 原因1 風当たりが強すぎる

#### 強風は天然のドライヤーになる

植物は風通しの良い場所を好みますが、強い風の通り道では植物はドライヤーを浴びたように乾燥しやすくなります。特にビルや建物が多い場所、高層階のベランダでは、局所的に強い流れができやすく注意が必要です。

## 対策 風よけの工夫をする

360度開けた場所はとても風通しが良いため、片側に壁や樹木など風を遮るものがあるだけで生育は大きく変わります。ベランダならフェンスに防風ネットをかけるのも有効です。



壁側に寄せる

風を遮るものを置く

防風ネットの利用

## 対策 暑くなる時間までに葉に水分を蓄えさせる

午前中のうちに植物の体内に水分を蓄えておくことが、葉の乾燥対策としても重要です。真夏だと午前9時過ぎにはすでに気温が高くなっているため、水やりは早朝にたっぷり行います。難しい場合は前日の夕方に与えておくのも良いでしょう。小さな鉢植えは真夏の朝と夕方の2回たっぷり水やりをし、土を乾燥させず湿り気を保つことで葉の水分が保たれ、葉の傷みは少なくなります。

## トラブル5 病害虫がつきやすい

病害虫は弱っている植物を感知してやってきます。病害虫がつきやすい植物は、さまざまな要因によって免疫力が低下します。

### 原因1 植物が軟弱に育っている

#### 過保護にするほど弱くなる

良かれと思って、あれこれ手をかけすぎていませんか。病害虫がつかないよう室内で育て続けたり、肥料や薬をたくさんあげたり…過保護に育てると逆効果になることがあります。

### 対策 日当たりと風通し良くがっちり育てる

適度な日当たりと風通しを良くすることで、植物の組織が固くなります。がっちりとした体づくりをすることで、植物の免疫力がUPします。さらに植物体内に水分がたっぷりあると、組織にハリが出て病害虫は付きづらくなります。

### 対策 窒素肥料を与えすぎない

肥料の与えすぎは、植物を軟弱にする大きな原因になります。特に窒素(N)肥料の与えすぎはアブラムシを引き寄せます。逆にカリ肥料(K)は病害虫への抵抗力を高め、組織を強くする効果があります。

カリ肥料が多い  
粉末状の液体肥料は  
ホームセンターでも  
入手しやすくおすすめ

### 対策 薬剤をかけすぎない

殺虫剤や殺菌剤を多用すると、良い常在菌や益虫もいなくなるため、逆に植物本来の免疫力を下げることにもつながります。必要以上に散布せず、決められた使用回数を守りましょう。

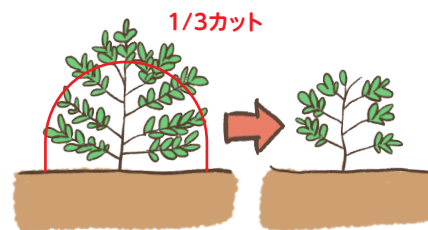
### 原因2 過繁茂している

#### 病害虫のすみかを作らない

多くの病害虫は日当たり・風通しの悪いところを好んで繁殖します。植物の枝葉が茂りすぎると、格好の病害虫のすみかになります。

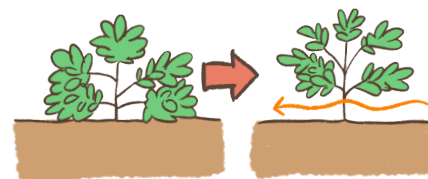
### 対策 草花類は一番花の後に切り戻しをする

春から生育する多くの草花は6~7月にかけて開花期を迎えます。一番最初の花がひと段落したら1/3ほど切り戻します。切り戻すことで株の内部に日が当たり風通しも良くなり、病害虫の予防になります。株も若返り、新しい根も伸びやすくなるため、夏の暑さにも強くなります。



### 対策 下葉をとる

株の下葉が土に触れていると蒸れやすくなるほか、雨などで土が跳ね返ることで病原菌がつきやすくなります。株元の葉をすかすことで、風通しが良くなります。マルチングを併用すると土の跳ね返りも防げ、さらに病害虫予防にも効果的です。



ロー  
メンテナンス



### 土に散布する薬剤を利用する

薬剤には液体で散布するタイプ以外にも、土に散布する粒剤タイプの殺虫剤や殺虫殺菌剤があります。植え付け前に花壇や鉢の土に混ぜておくか、株元に散布することで根から薬効成分が吸収されて、長く病害虫に効いてくれます。

# 夏から秋に向けての 栽培ポイント

暑い夏を乗り越えた植物たちも、お盆が過ぎる頃には、少しずつ夜が涼しくなり元気を取り戻していきます。夏越し後から、秋にかけてやっておきたい栽培のポイントを紹介します。

## 肥料管理

### どんな肥料がおすすめ？

#### ☑ 夏越し後の追肥は速効性の肥料を少量与える

秋の気配を感じるようになると、植物の生育も徐々に落ち着きます。開花が続くもの、生育がまだ盛んなものには速効性肥料を追肥し生育を補助します。夏バテ気味の植物には濃い肥料は厳禁ですので、規定量より薄めの液体肥料を与えると良いでしょう。緩効性肥料は気温の低下とともに効きづらくなるので夏以降は与えません。

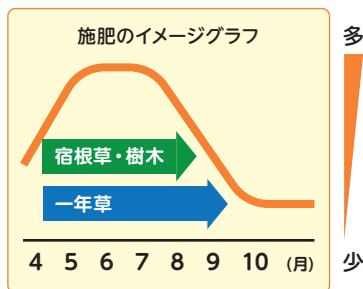
### 肥料はいつまで与える？

#### ☑ 一年草は9月上旬～中旬まで

開花が続く一年草は、秋の開花のピークを迎える9月上旬～中旬までを目安に肥料を与えましょう。下旬以降は植物が生育する温度より低くなるので肥料を吸収しなくなります。与える必要はないでしょう。

#### ☑ 外で越冬させる植物はお盆まで

宿根草や樹木類など、外で越冬する植物は9月以降に肥料が残らないようにします。特に窒素肥料が多く残っていると、秋遅くまで生育が続き、株が軟弱になります。株が弱くなると寒さに耐えられず、越冬がうまくいかなくなる場合があります。



## 植え替え・移植

### いつまでに作業を終わらせる？

#### ☑ 作業は9月いっぱいを目安

寒さが来る前に根を落ち着かせておく必要があるため、9月中に作業を終えておくと越冬させるのに安心です。

#### ☑ 鉢上げは早めに行う

花壇でまだ元気に咲いている花を鉢植えにして室内で楽しむ場合も、9月下旬までに鉢上げしておきましょう。あらかじめ鉢に慣らしてから室内に移すことで環境の変化によるストレスを軽減できます。

## 秋植え球根の植え付け

### いつ植えるのがよい？

#### ☑ 涼しくなる10月がベスト

北海道も残暑が厳しくなり、9月でも真夏日になる日や高温が続くことがあります。植え付け後に高温多雨が続くと球根が腐りやすくなる場合があるので、地植えの場合は10月に入ってから植え付けましょう。鉢植えの場合は9月から植え付けても大丈夫ですが、遅くとも11月までには終わらせましょう。

地植え可能	地植え不可 (鉢植えで室内管理)
チューリップ、スイセン、クロッカス、ムスカリ、ユリ、アリウム、シラー、チオノドクサ、イヌサフラン、スノードロップなど	アネモネ、フリージア、ランシユラス、オキザリス (一部越冬可)、ディケロステンマ、ホメリアなど

# 植物を強くする冬への準備

暑さに負けない植物にするためには、翌年に向けた冬からの準備も重要です。ただし多くの園芸書は本州基準になっており、寒冷地では同じやり方ができない場合も少なくありません。寒冷地ならではの作業を紹介します。

## 植物の片づけ

### ① 一年草は根まで抜き取る

秋に枯れて終わる一年草類は、根もすべて抜き取り処分します。枯れた植物をそのまま残すと、病害虫の原因になる場合もあります。土にすき込まず、適切に処分しましょう。

### ② 宿根草・球根植物は枯れてから地際でカット

地上部が緑のうち、光合成を続け越冬するための養分をまだ貯めています。全体の2/3ほど黄色く枯れてきたら地際でカットします。11月に入っても緑のままならば、すべてカットして強制的に休眠させてあげましょう。

### ③ ロゼット葉は残す

ロゼット葉\*が残る半落葉性の宿根草は、葉を傷つけないように大切に残し、枯れてきた高く伸びた部分のみをカットします。

※ロゼット葉とは、短い茎から生えた葉が地面に密着して放射状に広がり、バラのような形に展開する葉の形態です。

例

ネバタ、ラムズイヤー、リクニス、ガウラ、ジギタリス、ゲウム、モナルダ、ペンステモン、プルモナリア、ポテンティラなど



### ④ 常緑性の宿根草は刈り取らない

葉が枯れない常緑性の宿根草は、雪の下でも緑を保ち、春は雪解けとともに光合成を始めます。緑の葉は大切に残し、茶色く枯れた葉だけを取り除くようにします。

例

クリスマスローズ、ヒューケラ、アジュガなど

## 肥料管理

### 寒肥は必要?

#### ① 寒冷地は冬ではなく早春に施肥する

本州では冬に「寒肥」を与えることが多いですが、寒冷地の場合は秋から冬にかけては基本的に与えません。特に窒素肥料を寒くなる前に与えてしまうと、耐寒性が落ち凍害の要因になります。

地植えの植物には春、雪が溶けてすぐに緩効性肥料を与えましょう。

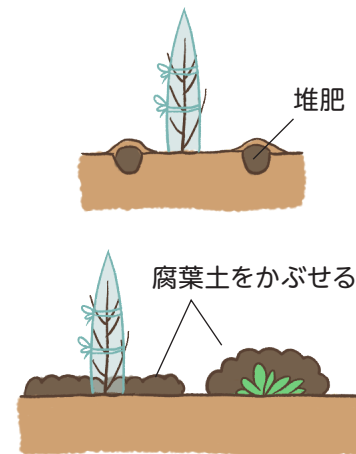
#### ② カリ肥料は耐寒性がアップする

耐寒性を高めたい場合は9~10月ごろに速効性のカリ肥料を与える方法もあります。カリ成分は植物の組織をかたく強くしてくれます。地植えでは硫酸カリを、鉢植えならばカリ成分を多く含む水溶性肥料を与えると良いでしょう。

### 堆肥は秋と春どちらがよい?

#### ① 秋がおすすめ

腐葉土などの堆肥を入れるのは春より秋が良く、積雪前までならばいつでも可能です。冬の間も雪の下でゆっくりと分解がすすみ、土壌改良に効果的です。株周りに数カ所浅く穴を掘り、堆肥をいれて土で埋めます。根の防寒も兼ねるのであれば、株周りの土の表面全体に厚めに腐葉土をかぶせます。寒さに弱い宿根草は腐葉土で完全に覆ってしまっても良いでしょう。



### 石灰は入れる?

#### ① 石灰は春にまく

石灰は雪解けで流れやすいため、春にまきます。施肥量は100g/m<sup>2</sup>を目安にします。なお、過剰にまくと植物の生育に欠かせない成分(微量要素)の欠乏を引き起こします。施肥量には注意しましょう。

## 病虫害への対策

病虫害トラブルが多かった株は、そのままにしておくとも病虫害が越冬し、翌年も繰り返し発生する恐れがあります。病虫害を持ち越さないよう、冬の前に行える対策を行きましょう。

### 冬の前にやっておくことは？

#### ✔ 病虫害がついていた葉や枝は冬前にしっかり処分

病虫害がついた葉や枝は翌年の発生源になる場合があります。枯れた枝や、落ちた葉はそのままにせず、きれいに集めてゴミに出すか、なるべく植物を植えない場所に深く穴を掘り埋めるなど、適切に処分しましょう。

#### ✔ できるかぎり捕殺して密度をさげる

多くの病虫害は卵や蛹など葉が効きづらい形態で越冬します。冬の前に株全体をチェックして目に見える卵や蛹などがあれば取り除いておきます。土をおこす際、蛹や幼虫が見つかったら必ずその都度捕殺しましょう。

### 薬剤はいつ散布する？

#### ✔ 春の芽出し前後から集中防除

春になって新芽の展開と同時に加害し始めるので、被害がひどかった株は芽出し時前後から初夏にかけてしっかり薬剤を散布して防除に努めましょう。薬剤に関しては植物や病虫害によって適用が異なります。専門家に相談するなどして正しく利用しましょう。

#### 主な病虫害の越冬と対策例

越冬形態	害虫				病気	
	卵	蛹	幼虫	成虫	孢子	細菌
越冬場所	枝や幹、樹皮の隙間、落ち葉の下、土の中など		樹皮の隙間、土の中など	枝や樹皮の隙間、芽など	枝や葉、落ち葉の下や土の中、病斑など	
対処法	卵の塊を取る	見つけ次第捕殺する 幼虫には土にまく薬剤も効果的		薬剤散布で密度を下げる	発病前に薬剤散布をスタートさせ、予防を徹底する	
主な例	ガ、アブラムシなど	チョウ類、ヨトウムシなど	ネキリムシ、カイガラムシなど	ハダニなど	うどん粉病、灰色カビ病など	斑点細菌病など

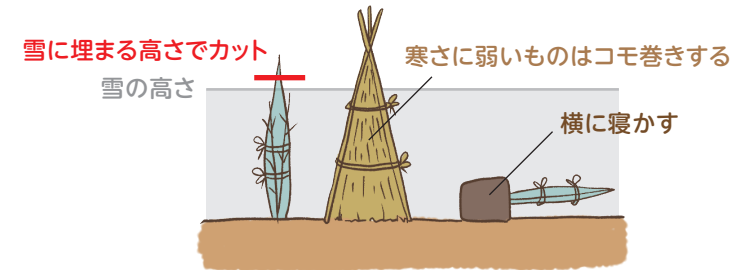
## 寒風害への対策

冬の乾いた寒風は大事な新芽や花芽を傷めるだけでなく、大事な枝が凍害になる恐れがあります。寒風害に遭ってしまうと、株が弱りやすくなります。

### 雪に埋もれても大丈夫？

#### ✔ 雪が一番の防寒着

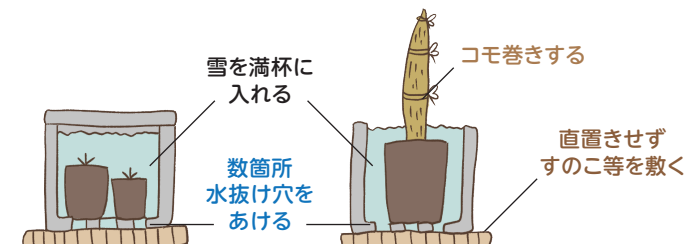
雪の中は湿度が高く、温度が氷点下にはならないため土が凍らず、寒風害による枝の脱水から植物を保護してくれます。バラなどの小低木は雪に埋まる程度まで軽く切り戻します。雪から出る場合はしっかりと冬囲いをしましょう。鉢植えは雪の下にしっかり埋めます。背の高いものは地面に寝かせることで、枝折れも防ぐことができます。



### ベランダで越冬できる？

#### ✔ 風よけと鉢の土を凍らせない工夫が必要

鉢植えをベランダで育てている場合は、雪に埋めることが難しいため、発泡スチロールの箱を利用してみましょう。蓋つきの発泡スチロール箱を用意し、底に水抜け用の穴を数カ所あけます。鉢をなるべく箱の中心寄りに入れて、その周りを雪で満たします。樹木類など大鉢の場合は鉢だけを入れて、上部はコモなどでしっかりくるんで風よけをします。冬の間は何度か中を確認して、雪が減っていたら足します。



## 園芸に関するご相談 緑の相談コーナーのご案内

直接お越しになるか、電話でも相談をお受けしています。

### 豊平公園緑のセンター 緑の相談コーナー TEL.(011)811-9370

- 住 所 札幌市豊平区豊平5条13丁目
- 相談日時 休館日を除く毎日 10時～12時、13時～16時
- 休 館 日 月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)、年末年始(12/29～1/3)

### 百合が原緑のセンター 緑の相談コーナー TEL.(011)772-3511

- 住 所 札幌市北区百合が原公園210番地
- 相談日時 4月中旬～11月上旬の毎週木曜日、日曜日  
10時～12時、13時～16時
- 休 館 日 月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)、年末年始(12/29～1/3)

### 平岡樹芸センター 緑の相談コーナー TEL.(011)883-2891

- 住 所 札幌市清田区平岡4条3丁目1-1
- 相談日時 4月29日～11月3日の毎週水曜日、土曜日  
10時～12時、13時～16時
- 休 館 日 月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)、  
11/4～翌年4/28休園

## 著者の紹介

いしがき みゆき  
文・写真 石垣 美深

公益財団法人札幌市公園緑化協会 豊平公園勤務  
豊平公園緑の相談員として、園芸に関わる市民からの幅広い  
相談に応じているほか、園芸講習会の講師として活躍中。



すくすくみどり No.34 (令和8年3月発行)  
「夏のガーデニングトラブル解決Book!」

編集・発行

公益財団法人 札幌市公園緑化協会

〒060-0031 北海道札幌市中央区北1条東1丁目6番地16アルファ北1条ビル4階  
TEL:011-211-2579

## 令和7年度 札幌市都市緑化基金事業報告

### 1 植樹などによる民有地緑化事業

#### ● 記念樹プレゼント

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の結婚、出産、新築、入学などの人生の節目のお祝いに際して、自宅の庭などで苗木を育てることを目的に、姫ライラックやアナベルほか、北海道日本花の会・中道リース株式会社様から寄贈のエゾヤマザクラ等、12樹種の苗木、合計803本を配布しました。

- ・ 令和7年6月7日(土) 百合が原公園にて配布



#### ● 緑化ツタ苗の補助

民有地緑化の推進を図るため、自宅や事業所等の塀や建物をツタで覆う壁面緑化を計画する札幌市民にナツツタの苗を配布しました。

### 2 緑化推進に関する普及啓発事業

#### ● キラリ!さっぽろ公園30選 2025

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあいなどがテーマのWEBフォトコンテストを開催し、グランプリ1点、準グランプリ2点、キラリ賞27点を選考しました。

- ・ 応募数:113名/462点

2025年グランプリ作品



#### ● 第59回「緑の絵」コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象に緑をテーマとした絵画コンクールを開催し、入賞作品47点、最優秀学校賞2校を選考しました。

- ・ 参加学校数:54校/応募数500点
- ・ 最優秀学校賞  
札幌市立北九条小学校、札幌市立平岡中央中学校
- ・ 表彰式  
令和7年12月13日(土) さっぽろテレビ塔ホール
- ・ 入賞作品展  
令和7年12月12日(金)～12月15日(月)  
札幌駅前地下歩行空間(チカホ)北大通交差点広場



第59回「緑の絵」コンクール入賞作品展

### ● 講習会「ビカクシダとチランジアの板付け講習会」

身近な緑を増やす一助となるよう、インテリアグリーンとして人気のあるビカクシダとチランジアの板付け講習会を行いました。植物の特徴や管理方法を紹介しながら制作を行い、参加者に作品づくりを楽しんでいただきました。

- ・ 令和7年10月31日(金) 豊平公園緑のセンター講義室
- ・ 受講者:28名

### ● さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム2026

ガーデニングデザイナー・佐藤末季による講演会を開催し、新たな発見や共感を通じて、札幌の緑化活動の推進を図りました。

- ◆ 第1部/講演会 ゆる庭生活のはじめ方  
～公園やコミュニティガーデンにでかけよう～
- ◆ 第2部/講演会 ゆるガーデンデザイン  
～宿根草をつかった小さな庭のデザイン～
  - ・ 令和8年3月15日(日) 札幌ガーデンパレス
  - ・ 参加数:200名



## 3 都市緑化サポーター養成事業

### ● さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化サポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識、技術を講義と実習で学ぶ連続講座を開講しました。

- ・ 開催期間:令和7年4月5日(土)～11月8日(土)
- ・ 内容:各テーマによる講義と実習(全17回)
- ・ 受講者:20名



## 4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

### ● フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化などを図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを3年間無料で貸し出しました。初年度には花苗と培養土を提供しました。

- ・ 貸出数1団体25基(花苗125株)



## 5 緑のまちづくり活動への助成及び支援

### ● さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営

花と緑のまちづくり活動に役立つ体験実習や講習会のほか、相互交流ができるイベントなどを開催し、市民の花と緑のまちづくり活動の推進を図りました。

※ さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業受託業務

### さっぽろ花と緑のネットワークとは？

「さっぽろタウンガーデナー(個人登録)」「花と緑のボランティア団体」と、それを支援する「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」の相互のつながりの総称です。

登録者数(令和7年12月末現在)

- ・ 花と緑のボランティア団体 35団体
- ・ さっぽろタウンガーデナー 326名

【お問い合わせ先】 さっぽろ花と緑のネットワーク事務局

TEL.011-251-3309 (平日 8:45～17:15)

<https://www.sapporo-park.or.jp/flowers/>



### 札幌市都市緑化基金へのご協力をお願い

札幌市都市緑化基金は、皆様からの寄付金を積み立て、その果実(利子)で民有地の緑化や緑に関わる普及啓発を進めていくものです。私たちの街札幌を次代の市民に誇れるより緑豊かな魅力ある街にするため、札幌市都市緑化基金へご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄附のお申し込みについては、専用の寄附金等申込書の用紙に必要事項をご記入のうえ、お手続きください。

【お問い合わせ先】 公益財団法人札幌市公園緑化協会

TEL.011-251-2579 (平日 8:45～17:15)

寄附金等申込書は札幌市公園緑化協会寄附金の募集についてのページからダウンロードできます。

<https://www.sapporo-park.or.jp/support/>





すくすくみどりは札幌市公園緑化協会ホームページ  
札幌市都市緑化基金のページからダウンロードできます

<https://www.sapporo-park.or.jp/kikin/>



この冊子は札幌市都市緑化基金への寄付をもとに製作しています。